

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8229
担当部課名	市民部	交通安全	課	
事務事業名	交通安全団体補助金		事業コード	23210

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第3章	安全に暮らせる都市の実現をめざします	事業開始年度
基本施策名	第2節	安全して暮らせるまちづくり	~63
施策名	第1施策	交通事故のないまちづくり	年度

## 2 実施根拠及び関連法令等

--

## 3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
交通事故のないまちづくりを実現するため、相模原市交通安全都市推進協議会へ補助し、各種交通安全運動の実施、交通安全思想の普及啓発活動を推進する。		相模原市交通安全都市推進協議会	
		対象数	1
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
相模原市交通安全都市推進協議会への補助金 交通安全ひとこえ運動などの年間を通しての交通安全の実施 春・夏・秋・年末の安全運動の実施 (春4月6日~15日・夏7月21日~30日・ 秋9月21日~30日・冬12月11日~20日) 交通安全市民総ぐるみ大会の開催(10月27日) (交通安全功労表彰などの式典及びアトラクション) 決算内容(各季・年間運動経費 9,734,532円、市民 総ぐるみ大会経費 3,634,079円、その他経費 2,537,885円)		・交通安全運動の実施 ・交通安全関係団体の支援	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度

## 4 評価指標

指標名	死亡者数減少率	交通事故発生件数減少率	負傷者数減少率
指標式	$100 - (\text{今年度事故発生件数} / \text{前年度事故発生件数} * 100)$	$100 - (\text{今年度死者数} / \text{前年度死者数} * 100)$	$100 - (\text{今年度負傷者数} / \text{前年度負傷者数} * 100)$
指標設定の意図	第7次相模原市交通安全計画における目標を達成するため(年間の死傷者数を前年度以下に抑止する)	第7次相模原市交通安全計画における目標を達成するため(交通事故発生件数を県下の平均以下に減少させる)	第7次相模原市交通安全計画における目標を達成するため(負傷者数を県下の平均以下に減少させる)

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標	17	-5	a	-19	b
指標	-4	-6	c	2	d
指標	-5	-5	e	1	f
事業費	決算(予算)額	15,318	15,318	15,318	13,287
	人員・時間数	(0.5人)	(0.5人)	(0.5人)	(0.5人)
	人件費	4,210	4,210	4,210	4,210
	その他経費	0	0	0	0
	合計	19,528	19,528	19,528	19,528
特定財源	0	0	0	0	0

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = -115.8%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		

$\frac{a}{b} = \frac{-19.0}{5.0} \times 100 = -380.0\%$	$\frac{c}{d} = \frac{2.0}{10.0} \times 100 = 20.0\%$	$\frac{e}{f} = \frac{1.0}{8.0} \times 100 = 12.5\%$
---	--	---

理由： 13年度に関しては、事故減少率は目標が達成できたものの、死者数は増加したため。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か

評価 A ▼	A : 適応している	理由： 交通事故は増加傾向にあり、継続して啓発活動を推進する必要がある。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か

評価 B ▼	A : 妥当である	理由： 直接的な効果が得られないため、判断基準は困難
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か

評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由： 交通安全都市宣言の趣旨を実現するために、相模原市交通安全都市推進協議会を中心とした、市民総ぐるみによる交通安全運動を推進する必要がある。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか

評価 B ▼	A : 満足できる	理由： 平成13年度は事故件数が減少したが、死者数が増加したため。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か

評価 A ▼	A : 有効である	理由： 交通安全都市宣言の目標達成に当該事業は有効なものと思える。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 街頭、回覧による啓発活動を中心に活動を実施しているが、ホームページの活用など時代に対応した啓発方法も検討していきたい。</p>	
	<p>コスト改善余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： コスト削減に努力しているが、更に見直せるものは対応したい。</p>	

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較	他市の状況も同様の内容である。
		説明
今後の進め方		交通事故「0」を目指しての啓発活動は今後とも継続して実施する必要がある。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	
<input type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了	

8 二次評価における変更点

・「交通安全総ぐるみ大会」のあり方(芸人によるアトラクションなど)について、検討すべきである。